

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2294200098
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 静岡駿河の家
所在地 (電話番号)	静岡市駿河区中野新田396 (054-287-7000)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(平成20年 6月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.6 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4)利用者の概要(平成20年6月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.8 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	萩原医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念は、職員皆で考えて作ったというだけあり、職員それぞれが実現に向けて意欲的に取り組んでいる。男性職員・若い職員が多いが概念にとらわれることなく、館長を中心に一丸となって利用者の思いに寄り添う前向きな介護が展開されている。利用者はそれぞれの力に応じて生活しており、家事なども協力して家族のようにこなしている姿があり、満足そうな自然な笑顔も多くみられた。前庭での毎日のラジオ体操や諸行事にも地域の方の参加もあり散歩での交流なども増えている。今後更に理想のグループホームの実現に向け夢を膨らませ、地域との結びつきを深めつつ、アイディアにチャレンジされることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着もこめられた理念が新たに作られており、その実現に向けて取り組んでいる。自己評価には、今回は職員も一緒に取り組み、ターミナル対応の指針やマニュアル作成についても、法人と共に検討を始めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価には、職員も加わって検討しまとめてあり、評価の意義の理解が深まっている。前回の評価結果についても検討され改善につなげる努力をしており、今回の訪問調査においても前向きな姿勢がうかがえた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は月に2回開催されている。入居状況・事故報告などと共に、問題点を話し合う。それを課題とし、職員で検討すると共に次回の推進会議で報告し確認するなどサービスの向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との意思の疎通を図れるよう、月に1度は来訪してもらえようお願ひしたり、利用者ごとに担当の職員が近況報告を手紙にしたため送っている。苦情などの問題点については、運営推進会議で外部者も含め話し合い検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に所属し、回覧板もまわすなど連携を図っている。日課となっている駐車場広場でのラジオ体操には、ご近所の方も参加され、この広場でのイベントの際には職員自らが打ったと言う手打ちうどんを食べてもらったりなど、コミュニケーションを図るようにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「地域に根付いた、明るく楽しい笑顔が絶えない夢のある我が家」は、職員皆で考えつくりあげたものである。若い職員、男性職員も多く、概念にとらわれることなく、理想のグループホームにしたいという願いのこもったわかりやすい理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実践に向け夢を持って積極的に新しい試みをしたり、それぞれが課題意識を持って介護に取り組むなど理念を共有している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎朝行っている前庭でのラジオ体操には、近所の方も仲間入りしてくるようになってきている。また、積極的に外出しており、挨拶を交わしたり花を頂くなど地域の方にも少しづつ慣れ理解が深まってきている。地域の方に職員自ら打った手打ちうどんを食べてもらうなど積極的な取り組みも見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は職員も加わって、自己評価項目を検討しまとめてあり、評価の意義の理解が深まっている。前回の評価結果についても検討され改善につなげる努力をしており、今回の訪問調査においても、前向きな取り組みがうかがえた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催している。ホームの状況報告、行事、イベントの紹介などを行っている。また、その折、利用者と一緒にバーベキューを楽しんでいただき理解を深めていただくこともある。会議の中で課題を作り、次回、それが出来ているかの再確認をするなどサービスの向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月介護相談員を受け入れ、利用者の近況報告をする と共に入退居やその他手続きの相談などのサービスの質の向上に、共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に月に1度は出来るだけ来訪していただくようお願いしており、その際は利用者の生活ぶりや、金銭管理などの報告をしている。また、利用者担当の職員は近況報告を手紙にしたため添えるなど、意思の疎通を図っており、家族から返事がくることも有る。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会には家族も参加し意見不満苦情など、外部者も含め話し合っており運営に反映させている。重要事項説明書に内部・外部の苦情受付窓口も明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員と利用者との馴染みの関係について特に重視し配慮している。その為採用時から馴染める職員を配し、コミュニケーションを図れるように努力しており、利用者の安心した生活を配慮している。職員の異動も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が年間、計画的に実施されている。職員のレベルに合わせてビデオ研修が行われ、レポートの提出が義務付けられている。またそれぞれの自己課題レポートへの取り組みや資格取得などへの奨励制度も設けられており、仕事への意欲にもつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の年4回の勉強会への参加、毎週の介護支援専門員の勉強会や集まりなどを通じてネットワークも出来つつありサービスの向上につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して納得して入居できるように、入居前に見学に来てもらい雰囲気を感してもらったり、グループホームでの生活について、詳しく判りやすく説明している。入居後は本人の生活暦や意思を尊重し、希望に沿った暮らしが出来るよう努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒にかわらぎを拾ってきて作ったと言う玄関前の椅子に象徴されるように、利用者と共に楽しむ生活がある。散歩に出かけ花の名前を覚えてもらったり、花火大会には浴衣を着せてもらったり、戦争の話や食事の作り方なども学んでいるなど、利用者の特技や知識を引き出した生活がみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に利用者と家族から健康状態、生活習慣、居宅環境、希望や意向を把握して課題分析(アセスメント)概要表に記録し、これをケアの基にして課題を分析し対処している。また日常の接触の中から希望や意向を捕らえ、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は課題分析票や介護記録を活用し、気づいた点や問題点を反映させている。それに本人、家族、職員の意見を盛り込んで、安全で自立した生活が送れるような支援内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の現状への適否は日々のカンファレンスや毎月のモニタリングで評価している。介護計画の見直しは、3ヶ月毎を通常としているが、利用者に変化が生じた場合は、その都度、本人・家族・職員と話し合いをして、ケアマネジャーを中心に、現状に即したケアプランを作り直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各利用者のニーズに応じて、通院同伴、外出介助、馴染みの理美容院の利用、また、ラジオ体操は地域住民も加わって施設の広場で行うなど事業所の多機能性を生かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医を希望する利用者はそちらを優先し、他は近隣の協力医をお願いしている。健康診断では往診していただいたり、内科が専門でも認知にも詳しく諸相談にも応じて頂け、医療支援体制は整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、本人や家族、新たな居所の相談員などと納得のいく話し合いや情報交換を行い、老人福祉施設・療養型病床群への移動を支援している。8月から看護師の採用が決まっており、医療連携体制についても、前向きに検討を始めている。	○	終末期対応は、時代の変容と共にホームに対し今後、必然的に求められてくる。法人と共に指針やマニュアルの作成に取り組まれるとともに、本人や家族の希望に沿える体制作りを進められるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報確保された支援のあり方は第一義に考慮され、研修会、職員会議で熱心に取り組んでいる。また、職員の個人評価を作成し利用者の尊厳が厳守された支援の確認に前向きに取り組む姿勢がみられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好みの暮らし方を把握し、利用者の要望を尊重して、なるべくその人らしく過ごせるようにしている。利用者にはその日の要望に応じて、外気浴、野菜づくり、編み物など自由な活動の支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から食事まですべて自前で作られているので、献立に利用者の趣向も取り入れられている。利用者はおいしそうに会話を楽しみながら食事をしており、配膳や下膳、分担しながらでの洗いものや片づけなど、出来る利用者が極自然に取り組む姿があり充実した生活が送られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットで2階は週5日、1階は週4日で入浴日をずらしているため、どの日でも入浴できる態勢が整えられている。なるべく数多い日数で浴していただきたく、利用者の負担にならないような声掛けを行うよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しく充実した日々を過ごせるよう、利用者の趣向により、畑仕事、河川で拾ってきた流木でのベンチ作り、マフラーや帽子を編む、近くの幼稚園に孔雀を見に行ったり、園児も来所して共にバーベキューを楽しんだりする姿が、居間の写真コーナーに飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りは交通量も少なく広い駐車場広場があるので毎朝、ご近所の人と交えてラジオ体操が行われている。職員は利用者が戸外で過ごすこと、散歩や買い物に出かけることの意義を理解しており、利用者の希望に応じながら積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を掛けていない。事務所がユニット出入口と居間の通路にあり、ベルもつけられ出入りが確認できるようにはなっているが、ユニット入り口は暗証番号の鍵でロックされていることが多く利用者自らの自由な出入りはできていない。	○	ユニット入り口の施錠については、利用者の自由な暮らしを支援する為に、鍵をかけなくても安全に介護することが出来ないか検討され工夫されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	館長が防火管理者の資格を持ち、職員への防火対策教育や施設内の防火設備の点検などにも力を注いでいる。また、定期的に消防署も参加の防災避難訓練を実施している。また、広い敷地を近隣住民も含む地域避難場所として提供されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みにあわせたり、食べやすいように個別に工夫されており、殆ど完食されていた。一人ひとりの食事の摂取量については大まかに把握され記録されているが水分量については記録されていない。	○	水分の摂取状況については食事と同様記録されることが望まれる。栄養バランスについては、定期的に専門的な観点から管理栄養士等に点検してもらうことを検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には職員の手による理念が見受けられ、優しさと安心が感じられた。居間には利用者・職員の作品や写真が飾られ、どこにでもあるような家庭用の家具・備品が設けられ落ち着いた雰囲気の中で、利用者は自由にゆったりした感じで過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの備品で整理・整頓され、また、利用者の使い慣れた馴染みの品々に囲まれ、居心地良さそうな居室が見受けられた。		